

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	金田地区 (羽田・乙連沢・小滝地区)	令和2年2月22日	令和4年2月10日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	888 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	716 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	99.94 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	37.73 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	238 ha
(備考)	

## 2 対象地区の課題

地区全体として比較的若い担い手が多いが、後継者不足の問題がある。また、深刻ではないが、鳥獣被害が一部発生している。

羽田地区は圃場整備が進んでいるが、一部地域はこれから実施したいという声がある。しかし、砂利や石が多く、事業着手には問題も多い。

乙連沢地区は酒米農家があり、規模拡大を進めているが、将来的に継続して生産ができるか不安がある。

小滝地区を含む相の川土地改良地区は、用水路の老朽化が深刻であり、修繕費負担が増える可能性がある。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

羽田地区では、圃場整備済の農地が多いため、今後も法人や地区外の担い手、新規担い手等を中心に農地中間管理事業等を活用した農地の集積・集約化を進めていく。

多面的機能支払の組織が2つあり、今後も当該活動を継続させていく。また、高齢化が進行しているが、営農組織があるため、今後も活動を継続させていく。

乙連沢地区では、圃場整備済の農地が多いため、今後も地区内外で農地の貸借を循環させていく。

酒米については、単収も良いので、今後も機械の共同利用を図りながら、できるだけ続けていく。

小滝地区では、地区内の若い担い手を中心に農地の貸借を引き続き循環させていく。また、他地区からの担い手や法人も参入してきており、今後地区全体の集積・集約化を促進する。また、多面的機能支払の事業を活用し、活動を継続しながら農地等の保全に努めていく。定年退職後に2～3名、就農予定者がいる。

## 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

## 多面的機能支払の取組方針

耕作放棄地の発生防止、地域のコミュニティ及び景観の維持につなげていくためにも、当該活動を引き続き継続させていく。

## 圃場整備の取組方針

羽田地区は、圃場整備未実施の東部において、圃場整備を進める方向で検討していく。

小滝地区は土地改良区内の用水路が老朽化してきており、修理・保全管理に努めてゆく。

## 新規・特産化作物の取組方針

乙連沢地区は、単収の良い酒米を耕作している農家があり、今後も耕作を続けていく。